

オープニングパーティ
9月27日〔金〕20時30分 ※参加費(500円)

オープニングイベント

眞島竜男「今日の踊り」

〔振付・出演〕眞島竜男

衆議院選挙が行われた2012年12月16日、「投票してきました」のツイート数×分間踊ります」と宣言し、101人からの報告に応じて101分間のダンスパフォーマンスを敢行しました。以来、2013年7月21日の参議院選挙まで毎日2分間、様々な場所で一風変わったダンスを行ってYouTubeにアップする「今日の踊り」プロジェクトを実施しました。総数230本に上る「踊り」を素材に、新たな映像&パフォーマンス作品を展開します。

眞島竜男 現代美術作家。1970年東京都生まれ。1993年ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ美術科卒業。武蔵野美術大学油絵学科非常勤講師。東京と大分にて制作活動中。徹底したサーチに基づく独特のユーモアを交えた作風を特徴に、写真、映像、パフォーマンスなど多様なメディアを用いた作品を発表。

○11月3日〔日〕横浜ダンス界隈で「今日の踊り」
※要横浜ダンス界隈入場料。

○会期中「今日の踊り」230本をNYK3Fにて毎日展示(観覧無料、但し10月26日は休映します)

展示

〔会期〕2013年9月27日〔金〕〜11月3日〔日〕
11時30分〜19時(10月26日は休映します)

〔会場〕BankART Studio NYK 3F 入場無料

◎映像作品展示

森村泰昌「大野一雄のために」(11分)

眞島竜男「今日の踊り」全編展示

大野一雄フェスティバル2010の「ラル・アル・ヘンチーナ頌り」コンストラクション」で発表された森村作品、また眞島竜男の「今日の踊り」全編を展示します。

◎アーカイヴ資料展示

大野一雄舞蹈研究所アーカイヴ資料より、舞踏家、舞踊関係者等の証言を収録したインタビュー映像集を公開します。

大野一雄

フェスティバル

2011

再び、時代の魂としての身体表現

大野一雄フェスティバル2013を開催します。

2004年第1回のフェスティバルで「時代の魂としての身体表現」というテーマで大野一雄自身に焦点を当てたプログラムを展開しました。フェスティバルは年々規模を拡大し、視野を広げ、10年目を迎えました。本年は今一度、大野一雄が舞踊を通じて時代の魂に近づいていった人であるという自明の事実を思い起こし、継承し、創造する作業を続けます。1階のホールでは会期中3団体がレジデンスし、作品制作と発表を行います。3階では、ますます拡張を続ける現代のダンスに焦点をあて、映像展示、アーカイヴ資料展示、ネット空間に溢れるダンスにもアプローチします。また、国際プログラムとして、リヨン都市共同体の国立振付センター・ディレクター、ユヴァル・ピック氏が率いる舞踊団を招聘します。さらに、大野一雄と深い親交があり、現代演劇に巨大な足跡を残した観世榮夫氏を追悼するKANZE HIDEO DAYを開催します。過去の優れた遺産は執着を持って現在に回収し、未来を思考するフェスティバルにしたいと思えます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

〔会期〕9月27日〔金〕〜11月3日〔日祝〕

〔会場〕BankART Studio NYK

野外及び周辺地域

〔主催〕大野一雄舞蹈研究所・BankART1929

〔助成〕平成25年度文化芸術振興費補助金

〔協力〕アンスティチエフランセ横浜

〔後援〕イスラエル大使館

〔後援〕イスラエル大使館

KAZUO
OHNO
FESTIVAL
nomades
ユヴァル・ピック
BORO
シーナきのはら
観世鏡之丞
清水寛二
池宮中夫
岡登志子
中村恩恵
内橋和久
佐藤信
竹本幹夫
古家優里
川口隆夫
笠井 叡
ヨネヤママコ
おやつテール
Abe "M." ARIA
アオキ裕キ
新人Hソケリッサ!
パール・アレキサンダー
大橋可也
フィリップ・シェール
他



〔アクセス〕BankART Studio NYK
横浜市中区海岸通3-6
〔電話〕045-6632812
みなとみらい線馬車道駅下車6番出口
〔赤れんが倉庫口〕より徒歩4分

1933年 撮影にて photo: Naoki Masson Sakine

新人Hソケリッサー!

「つひと」

9月27日[金] 19時30分開演
※終演後オープニングパーティに参加頂けます
9月28日[土] 16時開演
9月29日[日] 16時開演



新人Hソケリッサー! 振付家、アオキ裕キが日々生きることに向き合っている肉体から見えるものを求め、素材としての路上生活者の身体に目を向け、2009年より参加者を集めて始動、舞台公演による作品発表の他、十和田市現代美術館Arts Toward「今すぐ踊れ!」大野一雄、アオキ裕キ、バル2011及び2012、井の頭公園屋外公演「新世界ワールズ」、シシガーの寺尾紗穂とのコラボレーション、また横浜寿町の幼稚園バフォーマンス、慶応義塾大学、津田塾大学での講演など幅広く活動、路上生活の身体から生まれる景色は多様な要素を持ち合わせる。

大橋可也+フィリップ・シエール

10月23日[水] 20時開演

【振付】大橋可也、フィリップ・シエール
【出演】フィリップ・シエール、皆木正純



photo: L.CHEHERE

土方翼を始め、多くの舞踊家に取り上げられてきたニジンスキー「牧神の午後」の現代における可能性を探る、フランス人振付家フィリップ・シエールと大橋可也&ダンスを率いる振付家大橋可也とのコラボレーションプロジェクト。2011年、アトリエ・デ・パ・リ・カ・ロ・リン・カールソンにて滞在制作。日仏両国にて作品の上演を目指す発展中のプロジェクトである。

フィリップ・シエール 1997年よりコンテンポラリーダンスを始め、ハンチントン病の患者とのワークショップを展開。多くの病院や大学との共同プロジェクトをおこなう。日本においても、東京都現代美術館、東北芸術工科大学などで、パフォーマンス、ワークショップをおこなっている。http://www.philippechehere.com/

大橋可也 日本ダンス界の極北をひた走る大橋可也&ダンス芸術監督、振付家。2013年7月に現代日本SFの傑作「グラン・ヴァカンス」を作品化、上演。吸血鬼をモチーフにしたリサーチプロジェクト「ザ・ワールド」を進行中。http://danceharbour.com/

大野一雄との会話からのクリエイション

池宮中夫 ダンスカンパニーノマドス

「ヘルデンオーア 群生する耳」

10月30日[水] 19時30分開演★
10月31日[木] 20時開演
11月1日[金] 14時開演★
11月2日[土] 19時30分開演
★アフタートークあり



photo:大淵博樹

【演出/振付/美術】池宮中夫
【出演】熊谷乃理子、他
「ヘルデンオーア」とは、群生する耳と云う生きものである。この作品で登場するものは、曝された布巾のような表情をしている。フケりなのだ。吹けばとぶような所在不明の海洋漂流物。この日常的な微動に、生きものの明日を見出す。ユーモアとウィットに富む奔放な肌合いの全5シーンの初演となる。潮流の異なるダンスサーと、演奏者や俳優、パフォーマンスの協働は意外な程濃密である。それは表現する意義という問題に直面しながら、瀬戸際立っているからに他ならない。

池宮中夫 1959年東京生まれ。62、66年檜次、石井みどりと師事。この頃、初めて男の長髪の大人、大野一雄に会う。1989年旧ドイツにて学び、欧州各地、韓国等でソロ活動。92年よりノマドス演出、振付。近作ソロ上演2011年「哲理その庭園さくら」足どりみどり」2012年「愛空」武蔵野美術大学、多摩美術大学、東京芸術大学社会連携センター非常勤講師
ダンスカンパニーノマドス 1992年熊谷乃理子を中心に国内外で作品上演。近作2010年「空つき刺さる」の2011年「地球を踊る」連続中、「山をこえて」。2012年3月より福島県いわき市にてワークショップを開催し地元参加者と復興支援プログラム(音楽とダンスを継続的に実施。2013年3月「Herand」初演。

大野慶人

「花と鳥ー未来の私への手紙」

10月4日[金] 19時30分開演
10月5日[土] 16時開演
10月6日[日] 16時開演

【演出/振付/出演】大野慶人

大野一雄の「ラアル」(チーナ頌)冒頭の作品「ツイヴィーヌ抄」を踊る。土方翼が死の前年に私に振付けた作品を踊る。今の私自身を踊る。

大野慶人 1938年東京生まれ。59年土方翼の「禁色」で少年役を演ずる。以後アルト1館、暗黒舞踏派公演に参画。69年初リサイタルのあと舞台活動を中断。85年「死海」の大野一雄との共演でカムバックした。86年以降大野一雄の全作品を演出。98年、郡司正勝氏の遺稿を基に自身のソロ作品「ドリアングレイの最後の肖像」を上演。近作に「たしかかな朝」(2010)、「時の風」(2012)など。著書に「大野一雄、魂の糧」(フィルムアート社)。



どこでも踊るぞ、フランスコンテンポラリーダンスの精鋭来日公演

ユヴァル・ピック

「Danse Tout Terrain」

10月12日[土] 18時開演
10月13日[日] 16時開演

【振付】ユヴァル・ピック、フレイック・ケラワール
【出演】ラザール・ユエ、小林田香、キリアン・マドレーヌ、アンナ・マンロー、アントワネット・リフオ



photo: L.CHEHERE

リヨン都市共同体(グラン・リヨン)にあるリユー・ラ・パブ国立振付センターのカンパニーの初来日公演です。ディレクター、ユヴァル・ピック 振付「Play Bach」とフレデリック・グラヴェルによる新作「BWV245」の2本立て。いずれもヨハン・セバスチアン・バッハの楽曲をテーマとするプログラムです。「Danse Tout Terrain」とは、「あらゆる場所で踊る」の意。

ユヴァル・ピック 1970年イスラエルに生まれる。1990年代よりバトシエバ、リオン国立オペラ座バレエ団に参加。オハッド・ナハリ、テロ・サリネン、ラセル・マリファント等著名な振付家とのコラボレーションを行う。2011年リヨン都市共同体(グラン・リヨン)にあるリユー・ラ・パブ国立振付センターのディレクターに就任。

大阪で生まれた女」全編18番とS

「Improvisation」

10月14日[月祝] 16時開演

【出演】ラザール・ユエ、小林田香、キリアン・マドレーヌ、アンナ・マンロー、アントワネット・リフオ
【音楽】BORO、シーナキのほら(ハイオリン)

ユヴァル・ピックとBOROが出会います。鋭敏な音楽的感性で精緻な舞踊世界を構築する振付家ユヴァルと都市の情感を小説的エネルギーに昇華して歌うシンガーBORO。ジャンルも文化背景も全く異なる二人の冒険に立ち会ってください。

BORO 1954年兵伊丹市生まれ。1979年内田裕也氏プロデュースによる「都会千夜一夜」でデビュー。同年「大阪で生まれた女」が大ヒットする。BOROとは、オンボロ自転車に乗って街中を走り回っていた彼に、友人達がつけたニックネーム。沢田研二、松田優作、雪村いづみ、梓みちよ、島田紳助、近藤真彦、森進一、八代亜紀等のアーティストに楽曲を提供しながら、音楽プロデューサーとしても活躍。

プロジェクト大山

「をどるばか」

10月19日[土] 18時開演

【演出/振付】古家優里
【出演】梶本はるか、長谷川風立子、古家優里

舞踊家石井漢は自らを「をどるばか」と言いました。それはどんな意味だったのか。1925年の石井漢作品「プロテクト」の95ミリフィルムが残されています。当時16歳の崔承喜等3人の女性ダンサーが踊る作品です。日本洋舞史の黎明を映す作品を大山流にリコンストラクションし、「をどるばか」の精神に触れます。



プロジェクト大山 古家優里を中心とした護国寺系ダンスカンパニー。全メンバー女性。全メンバーお茶の水女子大学卒の経歴を持つ。2009年横浜ダンスコレクション展「R」にて審査員賞を受賞。10年「トヨタコロレオグラフィアワード」にて、次代を担う振付家賞を受賞。南仏ニームで開催される「EXPERIENCE JAPONAISE」に参加。2012年長塚圭史演出シスカンパニー公演「ガラスの動物園」に振付。出演。

リサーチプロジェクト

「踊ってみた、をみた」

10月20日[日] 16時開演

【パフォーマンス】カワムラツノリ

【振付/演出】初期型(カワムラツノリ)
【出演】喜多真実美、平澤瑛、松崎淳もっし、カワムラツノリ他
「サウンドテーブル詳細は大野一雄舞踏研究所ウェブサイト」

「踊ってみた」をリサーチするプロジェクトです。膨大な投稿数、さらに膨大なアクセス数。これは「現代の「舞踊」であり、情報化社会の新しいダンスコミュニティのあり方を示唆しているのかもしれない。ダンスファンの方へ、踊ってみたを見てみましょう。踊る、見る」の新しい関係が始まっています。

初期型 2001年より活動。おそらくダンスシアターカンパニー。ダンスの身体感(観)と演劇の実存性を併せ持つ作風を目指す。モットーは「愛すべきバカ」。http://shokudaibutsu.jp/ (たまに更新)



川口隆夫

「大野一雄について」

10月24日[木] 20時開演

【構成/演出/出演】川口隆夫
【ドラマツルグ】飯名高人

私は大野一雄の生前の舞台を見たことがない。最近機会あってその写真や映画を見ることが得、とても美しいと思った。うまく説明できないが、彼の体の動きのうねりやしなりに親近感を覚える。なにか官能のようなものを刺激してくる。それに身を委ねてみようと思った、錆に鉄を流し込むようにして。初演2013年8月、東京日暮里 千倉庫ダンスがみたい!パフォーマンス

川口隆夫 1990年代にダンスカンパニー「ATA DANCE」ダムタイプを経て、2003年からヒロを中心に「演劇・舞踊美術をまたハフォーマンスを展開。藤本隆行(ダムタイプ)+白井剛(Abs)の「True」本当のこと」「Noise」砂漠の老人」などパフォーマンスも多数。主な作品に「白分について語るパフォーマンス」(2008)、(「TABEMENDI」)など。12年には田辺知美とともに「病める舞姫をタクスト」に発表。14年より国内外のツアーを予定している。



©BOZZO

KANZE HIDEO DAY

観世榮夫七回忌追善

清水寛「三相間」

10月26日[土] 18時30分開演

【笛】松田弘之(小鼓)鶴澤洋太郎(大鼓)亀井広忠
【テテ乙】西村高夫、浅見慈一、谷本健吾、安藤貴康
【アフタートーク】佐藤信(演出家)
◎アフタートーク 竹本幹夫(早稲田大学文学部教授)

観世榮夫氏が2007年に急逝して七回忌を迎えます。この一日をKANZE HIDEO DAYとして、現代演劇の世界にジャンルを超えて大きな足跡を残した氏を思う時にしたいと思います。大野一雄パフォーマンス2005で氏自ら舞った「相聞」を再演し、氏の愛した「善知鳥」を舞臺子で上演するほか、トーク、映画上映、貴重資料の展示などで氏の仕事の一端を振り返ります。

観世鏡之丞 観世流シテ方音楽師。1956年生まれ。伯父観世寿夫、父親観世鏡之丞(入間国宝)に師事。力強さと繊細さを兼ね備えた謡と演技に定評がある。新作能や映画、現代音楽とのコラボレーションなど、古典を越えた世界でも幅広く活躍。紫綬褒章、日本芸術院賞受賞。重要無形文化財総合指定保持者。公益社団法人映仙会理事。

清水寛 2 観世流シテ方音楽師。1959年生まれ。観世寿夫、大野一雄、観世鏡之丞(入間国宝)、九世観世鏡之丞に師事。西村高夫と結成した「響の会」での演能活動の他、復讐能や新作能にも多数参加。多田富雄新作「能」(石仙人)「長崎の聖母」(沖縄残日記)ではテテを勤める。大野一雄パフォーマンス2011参加。BankART schoolで講師を務める。重要無形文化財総合指定保持者。公益社団法人映仙会理事。

●特別展示 「観世榮夫資料展」11時30分~13時30分 入場無料
●映画上映 「午後の遺言状」(1999) 11時30分、15時05分
【鉄輪】(197) 13時30分、17時05分
監督：新藤兼人 入場無料



観世榮夫 1927年、東京下谷にて七世観世鏡之丞雅雪の二男として生まれる。兄が観世寿夫、弟が静夫(八世観世鏡之丞)。東京音楽学校に学ぶ。1949年喜多流に転じたが1958年能界から離脱。以後現代劇やオペラの演出や、映画テレビなどに数多く出演。1966年佐藤信ら、劇団自由劇場の旗揚げに参加。現代音楽と作品も多い。97年能界に復帰。以後数多くの古典能を舞。鏡仙会理事長、京都造形芸術大学教授などを務める。世阿弥座などでの海外公演。「申楽の座」での反核の能「能楽座」での能楽普及などの業績も。97年芸術選奨文部大臣賞。98年モビール音楽賞、大野一雄と共演。2007年没。

笠井 毅

「日本国憲法を踊る」

10月27日[日] 18時開演

【演出/振付/笠井 毅】(発声)尾崎若菜、山口奈緒子、川上晶子

私の50年間の舞踊生活の中で、これまで直接に日本国と出会うことも、昭和21年に公布された日本国憲法とも真面目に出会うことがありませんでした。けれども、このたび自民党による憲法改正草案を読み、カラダの中で、ざわざわと血の騒ぐのを感じ、その無言の聲に耳を傾けた時、昭和21年公布の憲法が、自分のカラダの「骨格」であることを直観しました。また、「自由平等・博愛」の根幹理念が、地上の人間のみならず、地上を去った人々に、とつても有効な、宇宙的な「法」であることを確信しました。憲法は常に至上の「理想」に貫かれているべきです。この私の想いにひとつの「カラダの形」を与えてみようと思います。笠井 毅 三重県生まれ。モダンダンスとクラシックバレエを経て、大野一雄に会い舞踏に没入。土方翼作品「バネ色ダンス」(65年)、「形而情声」(67年)などに出演。同時に「傑刑聖母」(66年)など、ソロ作品を発表。71年大使館を設立。79年ドイツに渡り、オレイニョミミを学ぶ。「花粉革命」(01年)、「透明迷宮」(06年)、「血は特別のジュースだ」(11年)等世界各地で上演。



中村恩恵・岡登志子・内橋和久

11月1日[金] 21時30分開演

【振付/演出】中村恩恵、岡登志子
【音楽】内橋和久

微妙なバランスが崩れてしまうこと、そこからダンスが始まる。わたしは、感覚を凍らせる眩暈(めまい)を愛している。ポーの小説「メルシユトレムに呑まれて」の漁師のように、眩暈の世界に身をゆだねたい。

中村恩恵 1971年、国際バレエコンクールにて受賞後、モテカ、ルロバ、エメリ、キリアン率いるNDT等で活躍。1999年よりフリーの舞臺家として活動を展開する。オランダSocle Theater Prize、ニッポン舞臺賞、舞踊批評家協会新人賞、文化庁芸術選奨文部科学大臣賞、江口隆哉賞等の受賞歴を持つ。岡登志子 ドイツNRW州「Ensemble」芸術大学舞踊科卒業。神戸を拠点に活動するアンサンブル、ソノ主宰。振付家として舞臺作品を国内外で毎年発表。音楽家、照明家、美術家等様々なジャンルのアーティストと即興ライブを継続的にやっている。



ユヴァル・ピック&小林田香ワークショップ

10月15日[火] 17日[木] 19時30分~22時

何気ない日常の動きからダンスの共通言語としての振付を、参加者のアイデアと共に作り上げていきます。ダンス経験は問いません。【料金】3日間の受講料・・・6000円
公演チケット購入の方は・・・5000円

回遊型プログラム

11月3日[日祝] 13時開演

12時45分までにNYK1階で受付をして下さい。【会場】BankART Studio NYK 周辺地域を予定。ルートは当日発表。

【振付/出演】ヨネヤマト「T」Abe 「M」ARIA、おやつテーブル「今日の踊り」チーム、他
街中の様々な空間を活用してダンス公演を行いながら、観客は地図を片手に移動しながら見る恒例のプロジェクト。詳細ルートは当日発表。野外もありませんが小雨決行。



眞島竜男「今日の踊り」 photo: @hatanokosuke @bianClass

【料金】各公演
前売り2,500円 当日3,000円
学生・シニア(60歳以上)券500円割引
(学生証等、受付にて提示して下さい)
パスポート:10,000円(全演目を1回観覧可。記名を頂くご本人のみ使用できます)
3回券:6,000円(任意の3公演観覧可。記名を頂くご本人のみ使用できます)
【予約・お問合わせ】BankART 1929
ohnofes@bankart1929.com
TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813
予約はメールにて、ご来場日、氏名、連絡先を明記の上お申し込み下さい。お電話、FAXでのご予約も受付しています。